

特251

255

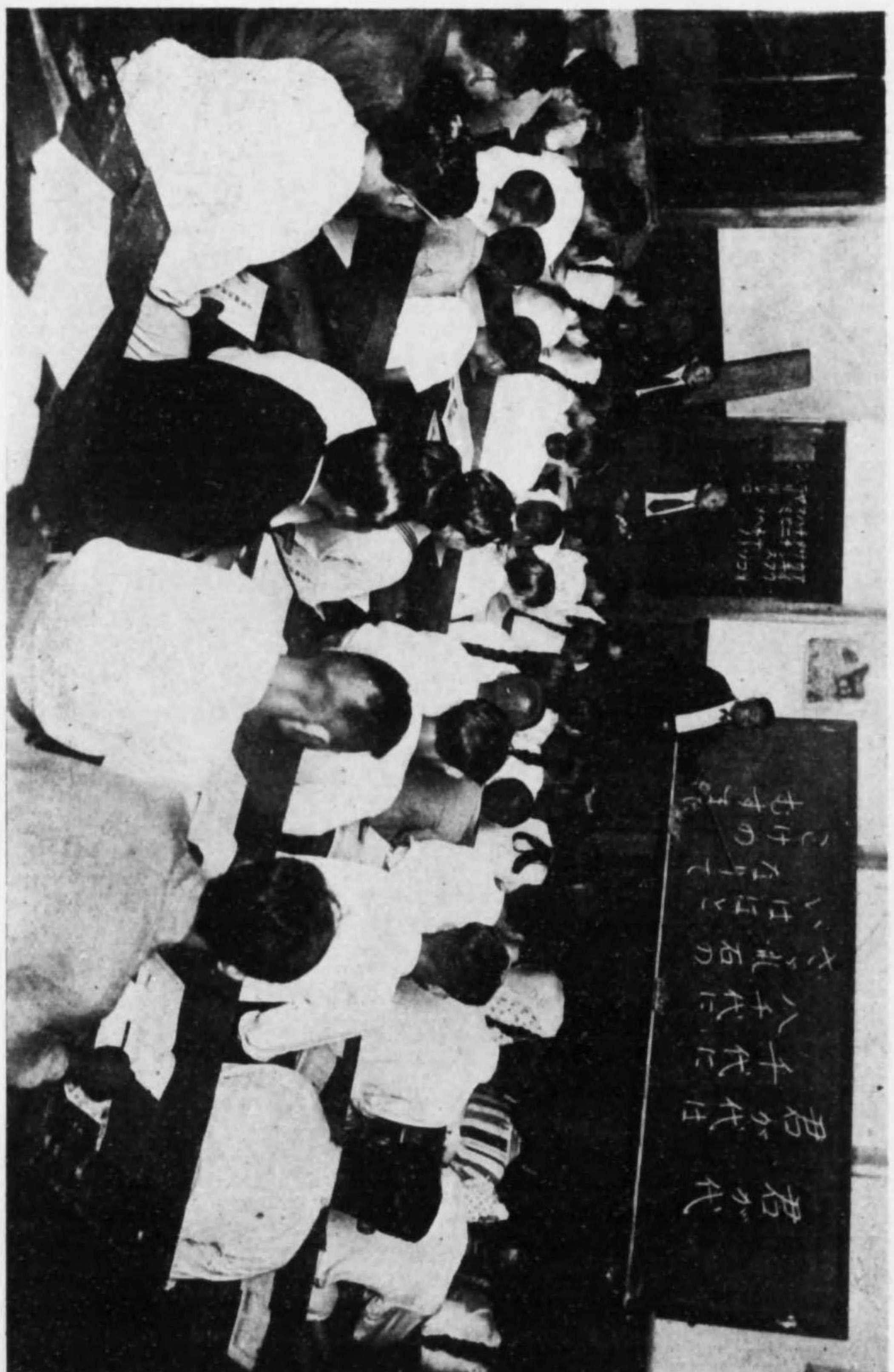
銃後の赤誠

京都府協和會



始





室教語國會習講期長會和協府都京

特251
255

序 文

今次支那に於ける事變の發端竝に原因に就いては餘りにも知悉せらるゝ所である。

今や帝國政府は自衛上堅く決意を爲すの已むなきに至り、特別議會は各派一致して政府の方針を支持し、國民の總意亦期せずして政府の所信に歸一統合し、朝野を擧げて公に奉じ、國患克服に邁進するに至りたるは、上御稜威の然らしむる所たると共に、尊嚴穢りなき吾が國體の精華と傳統的國民性の顯現なりと謂はねばならぬ。

我が京都に於ては事變初發以來在住朝鮮人が第一線に活躍する將士の勞苦に報いる爲、或は銃後の護りを尙一層堅める爲三分の責に任すべく不況の中に、窮迫せる生活と闘ひつゝも率先近隣同志と相呼應し、内鮮一體の信條を昂揚した力強き銃後の美談は都鄙を通じ、職業の如何貧富の差を問はず隨所に愛國の至情滾々として盡きざるものあるは眞に人意を強ふせしむるもので、衷心より感激の念を禁じ得ない。茲に蒐録する時局關係の善行美談は多數事實の内から代表的な實例を抜き來つたものにして、其他報告なきもの或は匿名の善行も多數あり。之等の美談は京都在住朝鮮人が時局に對する赤誠の發露にして、更に他をして起たしむるのみならず、内鮮協和の一資料とも致したい念願を以て之を刊行した次第である。

昭和十二年九月一日

京 都 府 協 和 會



目次

老人靛がトップ	相助會
赤誠の慰問袋百	半島京友會
夜學兒童も献金	南海人親友會
誠心は人後に落ちず	京都相助會
萬分の報恩に	京都博愛會
せめて將兵慰問なりと	京都博愛會山科分會
我々にも國を想ふ心あり	京都半島青年團
出征將兵を想いて	
吾も銃後の守りに	第一線に出ですとも
齊しく赤子として	我も國家の一員なり
休機中を利用して	感謝の電報と共に
朝鮮婦人の赤誠	一人残らず
此の誠心	純益金をそつくり
内鮮協和の好實例	銃後の一端
町内擧げて	國恩に感じて
各團體の愛國熱献金も長期の構へ	其他の献金
佛敎報國會	

老人靛がトップ

上鴨某所にある老人靛は日支事變勃發當時出征すべき軍人に對し、慰問金贈呈を決議し町内事務所を訪問し金十圓也を其の一部に加へられ度しと提出せり。
町役員に在りては防空演習の後仕末最中にて出征軍人慰問に就ては未だ協議等もなく機先を制せられたる此の申出に感激すると共に直ちに慰問方法につき協議せり。

赤誠の慰問袋百

上京區御前通り下立賣下ル 姜 在 源
氏は温厚篤實にして永年各種房製造卸業を營み、一般の信用厚く且つ太陽青年會長として會員を克く指導教化し、内鮮協和に多大の貢献を爲しつゝある人なるが、今次日支事變勃發以來會員を指導督勵、又率先皇軍將兵慰問或は献金等によく銃後の務を果しつゝありしが、今亦氏は日々の新聞等に依り皇軍將兵が東洋平和の爲に暴戻なる支那軍膺懲の爲日夜奮闘せらるゝに感激し、慰問袋(一個五十錢)百個を調製し八月三十日ほんの心文ですがと西陣署に持参し係員も引續き寄せる氏の赤誠に痛く感激せり。

夜學兒童も献金

上京區七本松通り上ノ下立賣東入
太陽青年會は會長姜在源氏外役員二十一名が會合、國家の爲生命を省みず連日連夜奮闘せられる出征將兵に對し、我々が愛國熱に燃えて居る眞心の幾分なりとも傳へて將士を慰めたいと
第一線を死守する吾が忠勇なる將兵を吾等は衷心より慰めよ
と記せる封筒を全會員に配布、慰問金募集を爲し之に感激せる内地人を合せ八十八名より金五十七圓八十錢を、尙同會經營夜學校在學兒童三十八名より金七圓九十錢を取纏め七月二十一日第十六師團司令部に出頭し手續を了せり。

誠心は人後に落ちず

住所 京都市下京區東九條東寺道上ル
乾物商 玄 鳳 俊
現在國家の超非常時に際し第一線に於て奉公し得ない自

分はせめて僅少なりとも國防費として献金致したしと七月二十日七條署を訪れ金十二圓を差出し手續方依頼せり。

萬分の報恩

本籍 江原道蔚珍郡温井面德品里
住所 左京區田中上柳町

古物商 鄭 命 石

氏は性質温順附近の人々の氣受よく信望ある人なるが如斯安心して幸福に暮せる事は國の御蔭であり、此非常時に際して國家の一員として萬分の報恩を致したしと七月十九日下鴨署を訪問、國防費として金十圓献金手續方を依頼せり。

せめて將兵慰問なりと

中京區西ノ京南原町 林 判 奉 外二十五名

同所に居住する前記林判奉外二十五氏は皇國の軍隊が北支其他に於て暴支膺懲の戰鬪を続け居られるは感激にたへず、朝鮮出身の吾々の微志もせめて將兵慰問品になりとも

加へられ度しとお互豊かならざる家計の内より二圓乃至十錢を集め計十六圓四十錢を西陣署を通じ献金せり。

我々にも國を思ふ心あり

東山區三條白川筋下ル梅宮町 金 相 萬
東山區三條白川筋上ル石泉院町 黃 鳳 洙

兩氏は出征兵士の慰問を志し八月一日趣意書を作製附近在住朝鮮人に廻覽せる處、共鳴者續出合計五十圓九十錢に達したるを以て松原署を訪れ寄託せり。

出征將兵を想いて

下京區坊城萬壽寺 友仙蒸業 權 達 孝

氏は日支事變に於て炎天下に連戰の出征皇軍將兵の辛苦を想ひ、慰問の爲八月八日堀川署を訪問金五十圓也寄託せり。

吾も銃後の守りに

中京區西之京三條坊町 崔 秉 元

氏は八月十日西陣署を訪れ時局は重大なり第一線に立ち

得ざる吾々はせめても國防の一端になりとも誠心を披瀝致し度しと金十圓を寄託せり。

齊しく赤子として

右京區太秦中筋 朴 金 岩
金 龍 伊
陳 龍 碩

三氏は八月九日太秦署を訪れ居住地附近在住朝鮮人三十八名が醸出せる二十五圓六十錢に左の依頼文を添へ手續方を依頼せり。

御 願

暴戻背信極りなき支那軍這回の行動は天人の俱に許さざる所であり、東亞の安定と永遠の平和を念願する帝國が膺懲の劍を抜かれたのも當然であり、又止むを得ざることを信じます。爾來皇軍の將兵は百三十餘度の炎熱と豪雨膝を浸する泥濘の中を馳驅し、一身を君國に奉じて戦つて居られます。私共の想像に及ばない所と存じます。私共半島人も等しく、天皇陛下の赤子であり、又日本國民であります。生を皇國に得て幸福之に過ぎるものはありません。此の機に際し報恩の一にも同志相計り生活費を節して皇

軍慰問の資に献したいと存じます。額は甚だ微細でありませんが赤心は決して内地人の後に落ちるものではありません。私共の微意の存する所を御同情下さいまして御繁忙中恐入ります。昭十二年八月九日

休機中を利用して

上京區寺ノ内通新町東入古木町四一〇 車 元 敦
同 朴 文 緒

兩氏は西陣帯地の賃織職を營んでゐるが北支事變に伴ひ各所より出征せる皇軍將兵の勞苦を想ふ時、我々半島人と雖も奉公の誠心に毫も異なる所なきも國防第一線に立つ能はざるを以て皇軍に對する慰問金を送り奉公の一端を披瀝すべしと、他の同志を誘ひ目下西陣帯織機の休機期間を利用して左の趣意書を作製し、八月一日より炎天下を毎日西陣方面の朝鮮人宅を訪問慰問金の募集に奔走中である。

趣 意 書

時局漸く慌しく東洋平和の爲め北支に出動せる皇軍の勞苦を思ふ時轉た感謝の情に不堪候吾等半島人と雖も等しく

日本國民たる以上奉公の精神に毫も異なる所無之候私事を願す君國の爲勇躍出動さる兵士に日々接しては最早吾等は拱手傍觀する能はず愛國の血潮は迸り此の肉體を馳つて直ちに第一線に立たんとするも能はずせめても皇軍の慰問を爲し奉公の一端を披瀝し且銃後の後援を充實致し度茲に微衷を表し各位の御賛同を希ふ次第に有之候

朝鮮婦人の赤誠

京都市下京區吉祥院新田二ノ段町一八

貞徳婦人會今次北支事變に際し出征者に對し他に率先して釀金し、其の内より金十三圓を慰問金として贈りたり之を知りたる同學區民も痛く感激し之を契機として慰問金贈呈の議急燃し寄々協議の結果、同學區全體より一千五百圓を釀出出征者慰問金として贈呈することゝなつた。

此の誠心

宮津警察署石川村巡查駐在所を訪れたる労働者風の朝鮮人が「私の様な者でも今回の事變に何か役立つことがあれば何時でもお使い下さい御願ひ致します」と述べ金五圓

を差出し「飛行機の油代の足しにでもして戴ければ幸甚です」と述べ立歸らんとせる爲、聞たゞしたるに石川村字龜山居住の吳永煥といひ、紙、鐵屑の買蒐を業とし、家庭には妻子あり豊ならざる生活の中より献金したるものにして其の赤心には聞く者をして感激せしめたり。

内鮮協和好實例

東山區山科三藏町二四

自動車運轉者 朴 龍 達

氏は今回同町内居住の内海某君の出征に際し赤誠以て其の見送りを爲すと共に其の家族の慰問に努め、更に附近居住の朝鮮人に呼びかけ、十四名より金三圓六十錢を集め慰問金として贈る等衷心其の門出を篤ふ所あり、附近居住の内地人間に於ても朝鮮人の斯る美舉に感激せざるものなく内鮮協和の生きた好材料及と賞讃して居る。

町内擧げて

右京區西京極大門町九

醬油商 金 夢 世

氏は町内居住朝鮮人有志と謀り北支派遣兵慰問金募集方

を協議し、二十二名の町内居住朝鮮人より三圓五十錢を取纏め七月十四日太秦署に寄託せり。

各團體の愛國熱

献金も長期の構へ

伏見區風呂屋町西方寺内

佛教報國會は今次事變に對し這般來より國防献金及皇軍慰問金品を會員より釀出中の處、八月二十五日右の内より金百圓を國防献金とし、尙今後事變の短期間に終了不可能なるに鑑み、向後毎日舞臺町禮拜堂に於て皇軍の武運長久を祈ると共に、日々酒、煙草を節約し、且つ炊爨時米一握り宛を殘し國防献金とする事を會員一同申合せ實行することゝなつた。

伏見區竹田七瀬川町四八

相助會は今次事變に最大の關心を持ち愛國熱の熾烈なることは内地人にも決して劣らざる熱意を有してゐるが、會員中に「現地に於て人夫にても」と願望し居れるものもあり、八月十日第一回の献金を爲したるが其の後の狀勢長期

に亘るの虞あるに鑑み、同會幹部たる金泰圭外數氏は自費を以て會員及知人を勸説し、出來得る限り國防献金せんと奔走中である。

又同會婦人部に於ては同所基督教禮拜堂に於て今次事變發生直後より役員曹宣井、張、三鉉外數氏は毎日の如く正午より午後一時迄一時間嚴肅に默禱をなし皇軍の戦勝を祈願しつゝありて、其の敬虔眞摯なる態度は懦夫をして起たしむるものがある。

上京區鷹野十二坊町

半島京友會は今回北支事變に際し我大日本帝國皇軍は酷暑と戦ひつゝ國防第一線へ國威宣揚に努められつゝあり、我半島京友會は感謝の意を表し慰問金として申徳秀外六十三名分十六圓六十錢を寄託す」云々と記し七月二十三日西陣署に出頭手續方依頼せり。

中京區壬生下溝町五一

在京南海人親友會

今回の日支事變に際して吾々も銃後を守る責任ありと緊急幹事を開催し、同會資金中より金二十圓を皇軍慰問金として堀川警察署に寄託せり。

京都市下京區東九條岩本町

京都補助會は七月七日臨時役員會を開催席上本春よりの繰越金十圓の處分に就て協議し、
「我々は朝鮮人が内地に於て各々業に就き日々楽しい生活に安んずるのは國防完備せる爲なり我々は之が感謝の意を表する爲に此の繰越金は國防献金とすべし」と決定更に會長姜行贊氏より十圓役員一同より五圓の醸出あり計二十八圓を取纏め七條署に手續を依頼せり。

京都博愛會

七月十八、十九兩日日出會館に於て演藝會を開催し、純益金五十圓を得内三十圓を國防献金となし、殘金二十圓を協和會事業資金に夫れ／＼寄託せり。

京都博愛會山科分會

右會員二十名集合の席上會長吳世燦氏より現下の時局に直面し吾々朝鮮出身者も内地出身者同様國防の一端を負擔すべく献金しては如何と諮りたるに、全員一致金二十圓を献金することとし山科署に依頼せり。

缺損とは別箇

京都半島青年團に在りては時局に鑑み演藝會を開催し其の純益金を皇軍慰問金とすべく決定、演藝會を開催したるが缺損を生じたるも皇軍慰問金は缺損とは別個の問題なりとし、團員は二圓乃至十錢の醸金を爲し、計金五十六圓也を取纏め松原署に出頭寄託せり。

第一線に出でずとも

何鹿郡西八田村在住の鄭泰山、朴占介、金只鉉、鄭判金任弼淳の五氏は北支事變勃發以來皇軍の武運長久を祈願しつゝあつたが、徴兵制度の未だ布かれざる我々朝鮮出身者が皇國の爲に盡す道は零細なりとも國防費の献金を爲すより他に策なしと協議の結果金二十圓を醸出し八月五日綾部署に寄託せり。

我も國家の一員なり

加佐郡新舞鶴町浮島同仁會は七月二十九日舞鶴町公會堂に於て開催されたる國論統一加佐郡々民大會に参加し、國家の一員たる覺悟を

發表したるが、其後會員協議の結果國防献金することを申合せ八月九日取纏めたる金六十圓を舞鶴署を経て献金せり

感謝の電報と共に

乙訓郡内鮮自助會

八月一日總會を開催會長以下百七十名出席し、酷熱の北支に於て一死以て暴支膺懲在支内鮮人保護の爲活動せられつゝある我陸海皇軍將士に感謝電報發送と國防献金として五十圓献納方を滿場一致可決し夫れ／＼手續せり。

一人残らず

園部管内居住の朝鮮人は北支事變に出征中の皇軍の勞に感謝の意を捧げ武運長久を祈願する反面、支那の暴戾に憤慨膺懲を切望してゐるが園部町内に居住し日々勞働に依り其の日／＼を送つて居る金永贊外二十四氏の熱情は決して人後に落ちない、毎日汗みすくになつて得た金の内三圓より最低一圓迄三十五圓を取纏め八月四日左記手紙と共に園部署に寄託せり。

記

原文のまゝ
吾等鮮人一同も北支で活躍の皇軍將士に心だけの慰問金です耻しいですが御受取下さい。

純益金をそつくり

龜岡町字追分

尹 基 俊

外六氏は豫而内鮮融和の映畫會を催せしが、此の純益金四十一圓二十七錢を七月二十三日國防献金として龜岡署に寄託せり。

銃後の一端を

中郡奥大野村字出合

金 甲 守

氏は肩書地に於て土工に従事申なるが、今次の北支事變に對し克く時局を認識し、一層帝國の臣民たるの信念を深め以て第一線に活躍する將兵の勞苦に對する銃後の守りとして一分の責に任すべきなりと不況の中に窮迫せる生活と闘かひつゝ率先して附近朝鮮人に呼び掛け自己の献金五十圓、其他十名よりの分を合し十二圓五十錢を峰山署に寄託せり。

國恩に感じて

府下天田郡荒原村字大身

大工 金 聖 淑

外二氏は居村役場に出頭し、私等朝鮮人が日常安心して生計を営むことが出来たのは内地の人々の御蔭で衷心感謝に堪へない所でありませう。此の金は些少ですが國防費に献金致しますと金六圓を寄託した。

其他の献金

金額	所在地	團體名又ハ氏名	金額	所在地	氏名
四一、八〇	上京區鷹野北町	朴 庚 得	二四、五〇	左京區田中玄京町	朱 三 範
一〇、〇〇	中京區壬生下溝町四六	趙 廷 殷	一七、二〇	〃	李 道 求
四一、二七	南桑田郡龜岡町	尹 基 俊	一〇、〇〇	左京區鹿ヶ谷寺ノ前町	金 益 權
三〇、〇〇	加佐郡舞鶴町	和 進 會	二五、五〇	中京區西ノ京原町	洪 八 岩
七、〇〇	綴喜郡田邊町	鐘 喜 鐘	一七、〇五	久世郡宇治町	金 禎 奎
			二〇、〇〇	中京區西ノ京兩町九	李 來 賢
			五、〇〇	〃 平町	李 一 擽
			一〇、〇〇	竹野郡彌榮村	同心青年團
			二二、二〇	下京區東九條松田町	權 重 八
			四、五〇	右京區花園内畑町	蔭 衛 星
			三、〇〇	上京區黒門下長者町上	盧 喜 溶
			一〇、〇〇	上京區六軒町一條上ル	朴 千 順
			四、五〇	左京區田中上柳町	鄭 東 龍
			一五、〇〇	右京區田中玄蕃町一一一	黃 積 善

二〇、八五 左京區北白川琵琶町

韶羅親友會

四四、〇〇

右京區西院三藏町

李 丁 柱

一七、〇〇 下京區西七條西ノ町

孔 琦 錫

一九、五〇

伏見區深草下河原町

勸進親友青年會

四一、一〇 伏見區竹田七瀬川東山町

柳 日 出

二、五〇

東山區山科北花山山田町

朴 萬 權

三五、〇〇 船井郡園部町

金 小 替

二〇、〇〇

何鹿郡西八田村

鄭 泰 山

一〇、〇〇 左京區一乘寺地藏本町

朴 洪 燮

一五、〇〇

久世郡宇治町

梁 炳 煥

一六、二〇 中京區西ノ京樋口町

金 鳳 道

三、〇〇

久世郡宇治町

文 宜 守

一一、二〇 久世郡宇治町

李 在 一

八、五〇

中京區壬生下溝町

嚴 德 祚

二〇、九〇 中京區壬生大竹町

李 洪 辰

二〇、〇〇

〃

南海人親友會

二八、二〇 下京區東七條川端町

宋 玉 守

二八、五〇

下京區八條源町

權 永 哲

一五、五〇 東山區山科御陵三藏町

袁 錫 完

一〇、〇〇

下京區壬生下溝町四六

趙 廷 殷

376
134

二五、〇〇	船井郡富本村	雀相仁	八名	九、六〇	乙訓郡大原野村	朴洪成	外一名
二五、六〇	左京區太秦中筋町	朴金岩	外三九名	五、〇〇	何鹿郡中筋村字大島	金命模	
五〇、〇〇	下京區坊城萬壽寺	川島正太郎事	孝	二、〇〇	綾部町裏町	木本實	
四四、五〇	〃 中堂寺	權達	外四〇名	五、〇〇	與謝郡與謝村字瀧	崔德述	
六〇、〇〇	加佐郡新舞鶴町	朴己星	外六〇名	六、〇〇	天田郡萬原村字大身	金聖淑	外二名
五〇、〇〇	與謝郡石川村龜山	吳永煥	外六〇名	六三、九〇	中郡峰山町	權載登	外四名
五〇、九〇	東山區三條白川橋上ル	黃鳳洙	外三〇名	三、〇〇	竹野郡網野町	雀奠翊	
二二、五〇	下京區坊城萬壽寺	川島正太郎方	蒸工場従業員一同	一八、二〇	下京區西七條衣田町	吳在省	外一名
四七、〇〇	下京區唐橋四ツ塚	梁承武	外五二名	一〇、〇〇	左京百萬遍境内	大友會	
二〇、〇〇	左京區一乘寺地藏本町	權椿	外一八名	計 三千百八十六圓八十六錢			
一〇、〇〇	〃	関永壽	外五名	八月二十四日現在			
五、〇〇	久世郡淀町	郭光文	外五名	☆ ☆ ☆			

(報告ありたる分のみ)

昭和十二年九月五日印刷
昭和十二年九月十日發行

京都府廳社會課内
發行者 田村義雄
印刷者 長谷川長

發行所

京都府廳社會課内
京都府協和會

終

